

平成26年における宇都宮市の交通事故の発生状況について

交通事故統計情報は栃木県警察本部交通企画課提供

交通事故発生件数，負傷者数は概数

1 宇都宮市の交通事故発生件数，死者数，負傷者数の推移

平成26年の本市の交通事故発生件数1,966件(前年比▲397件)，死者数17人(前年比+4人)，負傷者数2,416人(前年比▲522人)と，死者数は増加したものの，2年連続，発生件数，負傷者数は減少している。

特に，発生件数及び負傷者数については，昭和45年以降，過去最小値となった。

また，事故発生件数は前年比▲16.8%となり，栃木県▲13.8%，全国▲8.8%に対し，減少割合が高かった。

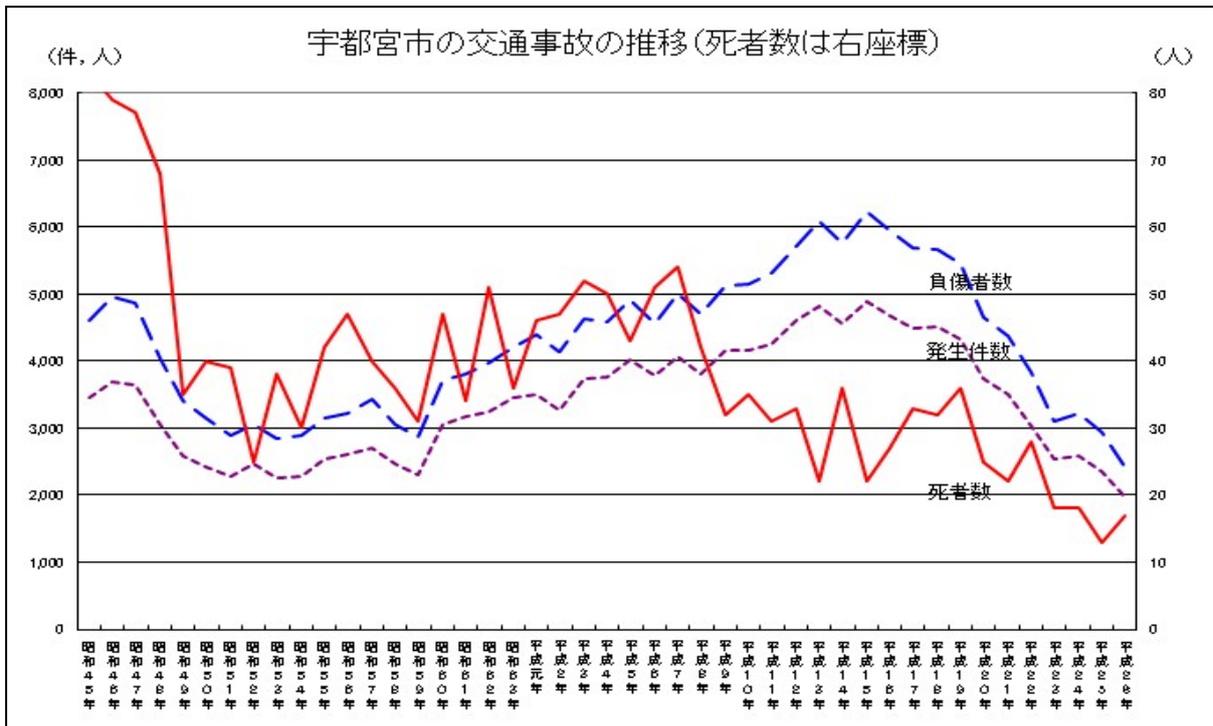
(1) 過去5年間の推移と第9次宇都宮市交通安全計画(H23~H27)の目標値

| 項目 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 目標値 |
|----------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 交通事故発生件数 | 3,043件 (▲460件) | 2,535件 (▲508件) | 2,576件 (41件) | 2,363件 (▲213件) | 1,966件 (▲397件) | 1,800件 以下 |
| 交通事故死者数 | 28人 (6人) | 18人 (▲10人) | 18人 (0人) | 13人 (▲5人) | 17人 (+4人) | 14人 以下 |
| 交通事故負傷者数 | 3,831人 (▲540人) | 3,102人 (▲729人) | 3,225人 (123人) | 2,938人 (▲287人) | 2,416人 (▲522人) | 2,200人 以下 |

注) 下段()は対前年増減数

 第9次交通安全計画

(2) 宇都宮市の交通事故の推移



- ア 発生件数1,966件(過去最小値)，過去最多4,887件(H15)の半数以下
 イ 死者数 17人(過去2番目に少ない値)，過去最多83人(S45)の約5分の1
 ウ 負傷者数2,416人(過去最小値)，過去最多6,236人(H15)の半数以下

2. 市内の交通発生状況からみられた特徴

(1) 事故類型別の特徴

【P3 グラフ】

事故類型別では、車両相互が約85%、車両相互のうち、「追突」が48.9%、「交差点等（出会い頭、右左折）」が39.2%と多くを占めている。

(2) 年代別の特徴

【P4, 5 グラフ】

年代別に交通事故発生件数を見ると、20歳代が450件と最も多い。

さらに、事故の第一当事者数を年代別に見ると、全世代で減少しているものの、40歳代、65歳以上の減少率が低い。また、20歳代が23.3%（人口構成比約10.6%）、高齢者が17.9%（人口構成比約22.3%）と多く、高齢者は増加（平成22年14.0%⇒平成26年17.9%）している。

(3) 自転車事故の特徴

【P5, 7, 8 グラフ】

自転車の交通事故発生件数は421件（前年比▲88件）と減少し、ほとんどの世代において減少した。

また、自転車乗車中の事故（第一当事者）のうち、高齢者が占める割合は37.1%、15歳以下が占める割合は21.9%と多くを占めている。

(4) 死亡事故の特徴

【P9 グラフ】

死者数17人のうち、65歳以上の高齢者が6人（35.3%）と多くを占めている。

死者数17人のうち、歩行者の事故が10人（58.8%、うち高齢者3人）と、前年比+5人増加した。夜間の歩行者の事故が8人と多かった。

(5) 飲酒運転による事故

【P10 グラフ】

酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数は、前年より▲14件、▲2人減少した。

また、酒気帯び運転による交通事故発生件数を年代別に見ると、30歳代が8件と最も多く、40歳代が5件、50歳代が4件と次いで多かった。

(6) 道路別の特徴

【P11, 12 グラフ】

道路別に事故発生件数を見ると、国道、県道、市道でともに減少しているが、国道・県道の死者数が増加した。また、事故類型別で見ると、市道は国道・県道に比べ、交差点等（出会い頭、右左折時等）の事故が多く、追突の事故が少ない。また、市道は、人対車両の事故が国道・県道の約4倍、車両単独の事故が約3倍と多い。

(7) その他の特徴

【P13, 14 グラフ】

・月別に交通事故発生件数を見ると、上位月は12月、10月、1月となり、12月のみ前年比増加した。また、8月～12月（後半）にかけて死亡事故が多く発生している。

・曜日別に交通事故発生件数を見ると、上位曜日は金曜日、木曜日、月曜日の順となり、金曜日は過去8年連続（H19～H26）で一番多い曜日となっている。

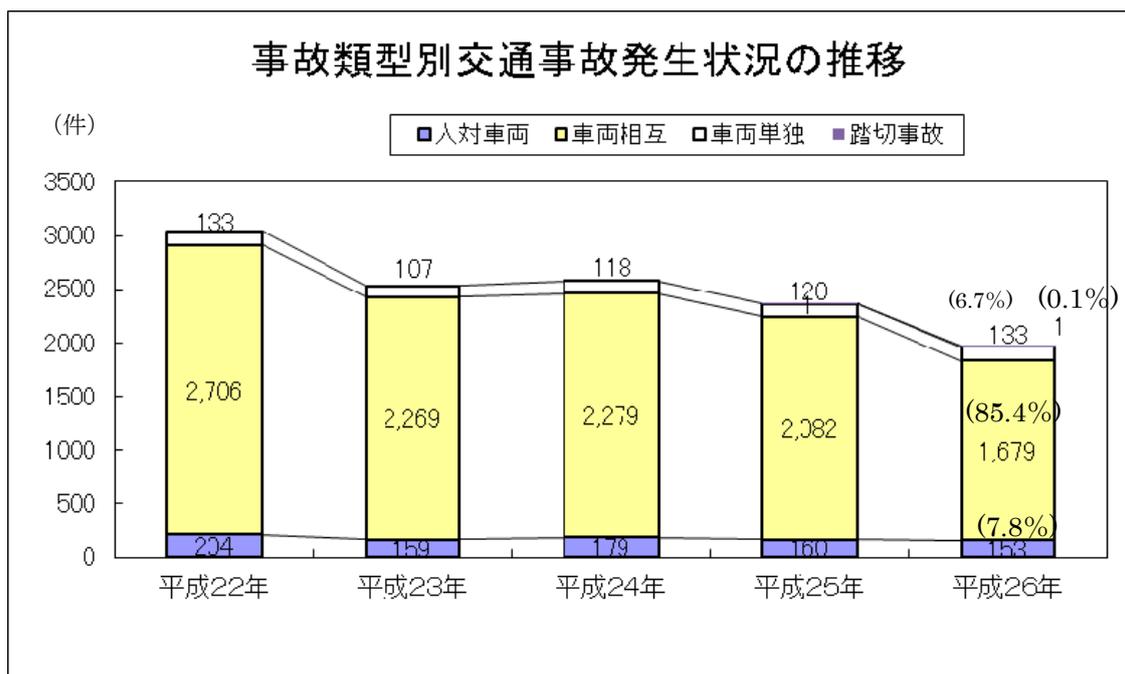
・時間帯別に交通事故発生件数を見ると、8時台（通勤・通学）が最も多く、次いで17時台（買物・帰宅）に多く発生している。

【参 考：市内の交通事故発生状況からみられた特徴】

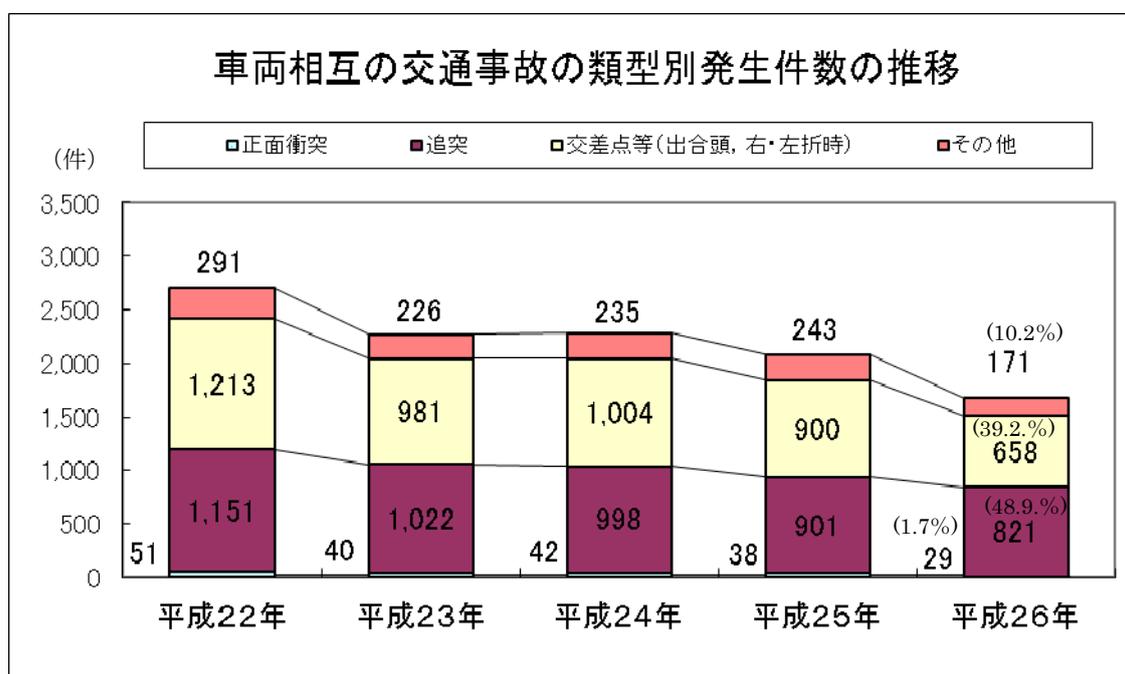
(1) 事故類型別の特徴

事故類型別では、車両相互が約85%占めており、車両相互のうち、「追突」が48.9%、「交差点等（出会い頭、右左折）」が39.2%と多くの要因を占めている。

① 事故類型別交通事故の発生状況の推移



② 車両相互の交通事故の類型別発生件数

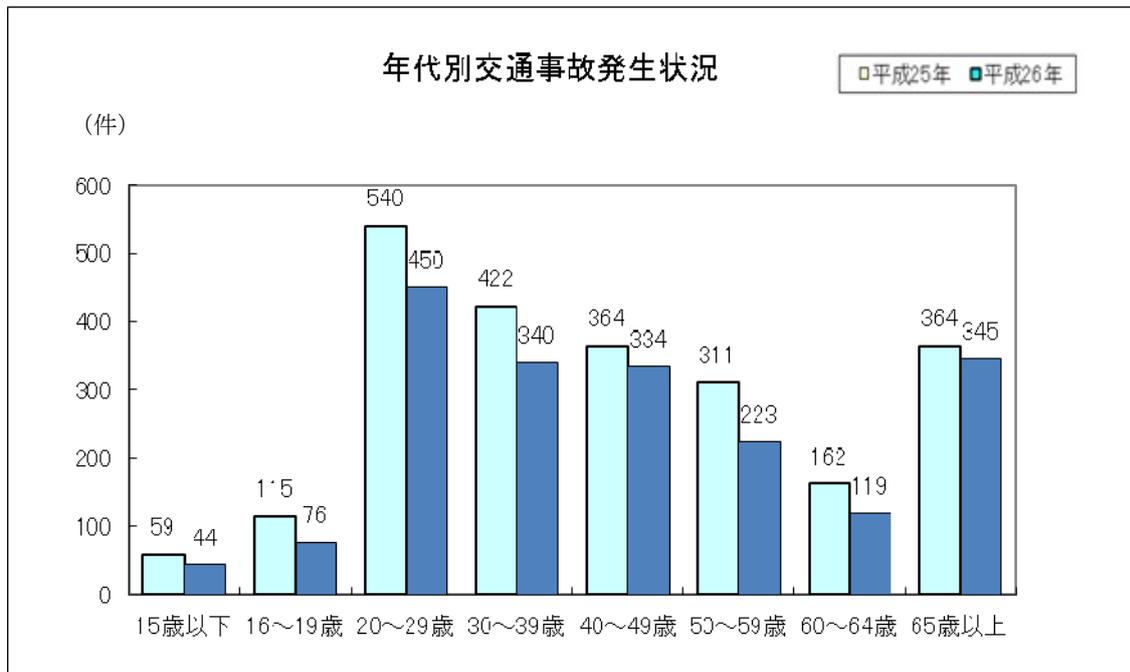


(2) 年代別の特徴

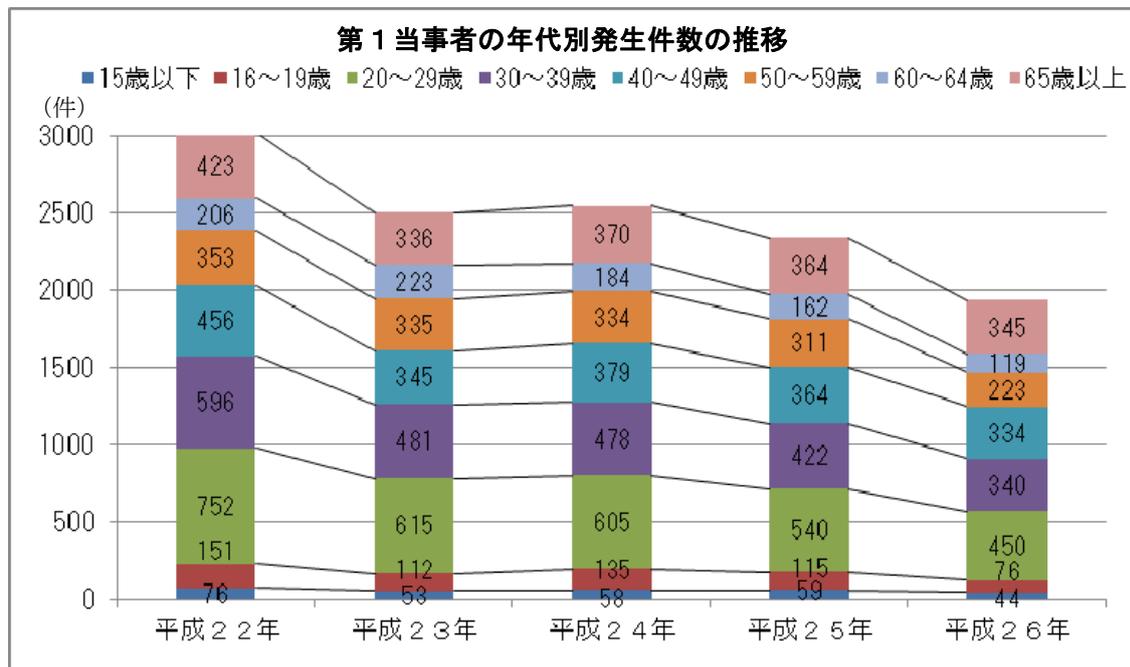
年代別に交通事故発生件数を見ると、20歳代が450件と最も多い。

さらに、事故の第一当事者を年代別に見ると、全世代で減少しているものの、40歳代、65歳以上の減少率が低い。また、20歳代が23.3%（人口構成比約10.6%）、高齢者が17.9%（人口構成比約22.3%）と多く、高齢者は増加（平成22年14.0%⇒平成26年17.9%）している。

① 年代別交通事故発生状況



② 第1当事者の年代別発生件数の割合の推移



③ 第1当事者の年代別・状態別発生件数

| 区 分 | | 15歳以下 | 16～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65歳以上 | 合計 | 構成比 | |
|-------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|
| 自動車乗車中 | 平成26年 | 件数 | 0 | 55 | 429 | 324 | 316 | 204 | 115 | 275 | 1,718 | 89.0 |
| | | 構成比 | 0.0 | 3.2 | 25.0 | 18.9 | 18.4 | 11.9 | 6.7 | 16.0 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 0 | 83 | 514 | 408 | 346 | 296 | 150 | 305 | 2,102 | 90.0 |
| | | 構成比 | 0.0 | 3.9 | 24.5 | 19.4 | 16.5 | 14.1 | 7.1 | 14.5 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | 0 | ▲ 28 | ▲ 85 | ▲ 84 | ▲ 30 | ▲ 92 | ▲ 35 | ▲ 30 | ▲ 384 | |
| | 増減率(件数) | | - | ▲ 33.7 | ▲ 16.5 | ▲ 20.6 | ▲ 8.7 | ▲ 31.1 | ▲ 23.3 | ▲ 9.8 | ▲ 18.3 | |
| 自動二輪車乗車中 | 平成26年 | 件数 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 2 | 9 | 0.5 |
| | | 構成比 | 0.0 | 0.0 | 22.2 | 11.1 | 33.3 | 11.1 | 0.0 | 22.2 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 0 | 3 | 4 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 14 | 0.6 |
| | | 構成比 | 0.0 | 21.4 | 28.6 | 14.3 | 14.3 | 14.3 | 0.0 | 7.1 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | 0 | ▲ 3 | ▲ 2 | ▲ 1 | 1 | ▲ 1 | 0 | 1 | ▲ 5 | |
| | 増減率(件数) | | - | 皆減 | ▲ 50.0 | ▲ 50.0 | 50.0 | ▲ 50.0 | - | 100.0 | ▲ 35.7 | |
| 原付自転車乗車中 | 平成26年 | 件数 | 0 | 7 | 7 | 2 | 2 | 1 | 1 | 4 | 24 | 1.2 |
| | | 構成比 | 0.0 | 29.2 | 29.2 | 8.3 | 8.3 | 4.2 | 4.2 | 16.7 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 25 | 1.1 |
| | | 構成比 | 4.0 | 20.0 | 16.0 | 12.0 | 8.0 | 12.0 | 12.0 | 16.0 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | ▲ 1 | 2 | 3 | ▲ 1 | 0 | ▲ 2 | ▲ 2 | 0 | ▲ 1 | |
| | 増減率(件数) | | 皆減 | 40.0 | 75.0 | ▲ 33.3 | - | ▲ 66.7 | ▲ 66.7 | - | ▲ 4.0 | |
| 自転車乗車中 | 平成26年 | 件数 | 33 | 13 | 10 | 10 | 10 | 16 | 3 | 56 | 151 | 7.8 |
| | | 構成比 | 21.9 | 8.6 | 6.6 | 6.6 | 6.6 | 10.6 | 2.0 | 37.1 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 40 | 23 | 17 | 7 | 13 | 9 | 9 | 50 | 168 | 7.2 |
| | | 構成比 | 23.8 | 13.7 | 10.1 | 4.2 | 7.7 | 5.4 | 5.4 | 29.8 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | ▲ 7 | ▲ 10 | ▲ 7 | 3 | ▲ 3 | 7 | ▲ 6 | 6 | ▲ 17 | |
| | 増減率(件数) | | ▲ 17.5 | ▲ 43.5 | ▲ 41.2 | 42.9 | ▲ 23.1 | 77.8 | ▲ 66.7 | 12.0 | ▲ 10.1 | |
| 歩行中 | 平成26年 | 件数 | 11 | 1 | 2 | 3 | 3 | 1 | 0 | 8 | 29 | 1.5 |
| | | 構成比 | 37.9 | 3.4 | 6.9 | 10.3 | 10.3 | 3.4 | 0.0 | 27.6 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 18 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 | 28 | 1.2 |
| | | 構成比 | 64.3 | 3.6 | 3.6 | 7.1 | 3.6 | 3.6 | 0.0 | 14.3 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | ▲ 7 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 4 | 1 | |
| | 増減率(件数) | | ▲ 38.9 | - | 100.0 | 50.0 | 200.0 | - | - | 100.0 | 3.6 | |
| 合 計 | 平成26年 | 件数 | 44 | 76 | 450 | 340 | 334 | 223 | 119 | 345 | 1,931 | 100.0 |
| | | 構成比 | 2.3 | 3.9 | 23.3 | 17.6 | 17.3 | 11.5 | 6.2 | 17.9 | 100.0 | |
| | 平成25年 | 件数 | 59 | 115 | 540 | 422 | 364 | 311 | 162 | 364 | 2,337 | 100.0 |
| | | 構成比 | 2.5 | 4.9 | 23.1 | 18.1 | 15.6 | 13.3 | 6.9 | 15.6 | 100.0 | |
| | 増減数(件数) | | ▲ 15 | ▲ 39 | ▲ 90 | ▲ 82 | ▲ 30 | ▲ 88 | ▲ 43 | ▲ 19 | ▲ 406 | |
| | 増減率(件数) | | ▲ 25.4 | ▲ 33.9 | ▲ 16.7 | ▲ 19.4 | ▲ 8.2 | ▲ 28.3 | ▲ 26.5 | ▲ 5.2 | ▲ 17.4 | |
| H26.12.31 現在 人口人数 | | 77,771 | 18,945 | 55,188 | 75,655 | 79,980 | 61,720 | 35,155 | 116,039 | 520,453 | | |
| 構成比 | | 14.9 | 3.6 | 10.6 | 14.5 | 15.4 | 11.9 | 6.8 | 22.3 | 100.0 | | |

注) 第1当事者：交通事故に関係した者のうち、過失が最も重い者をいい、過失同等の場合は被害がより軽い者をいう。

注) 第1当事者が不明なものは計上していない。(参考:第1当事者不明 平成26年35件,平成25年26件)

(3) 自転車事故の特徴

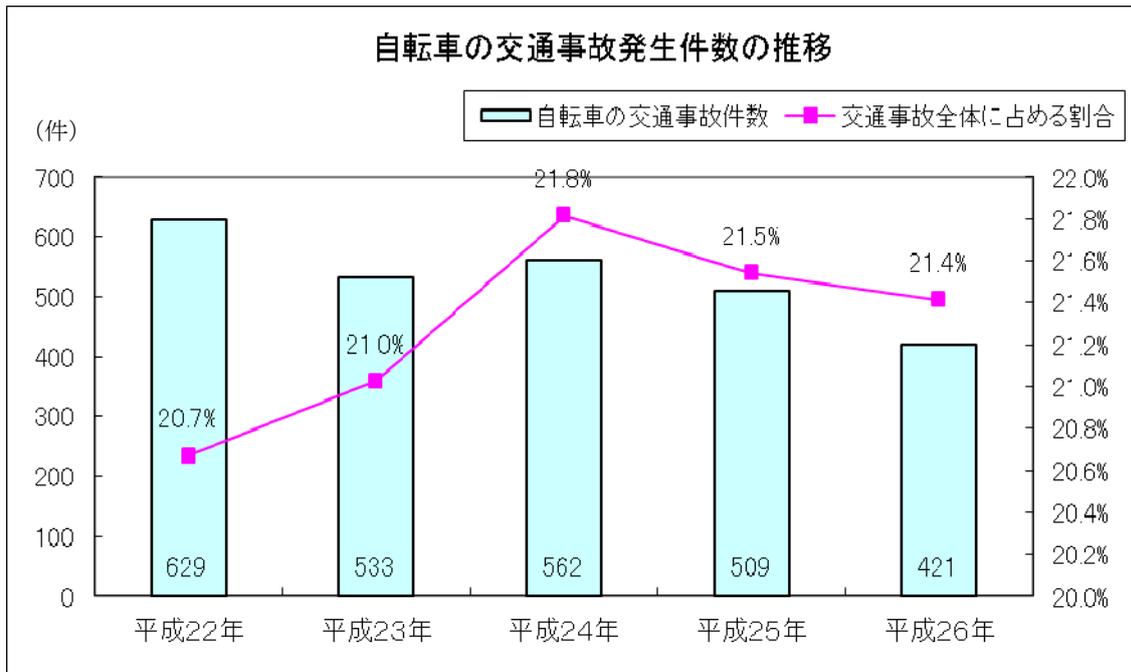
自転車の交通事故発生件数は421件（前年比▲88件）と減少し、ほとんどの世代において減少し、自転車事故の第1当事者数も151人（前年比▲17人減）と減少している。

また、自転車乗車中の事故（第一当事者）のうち、高齢者が占める割合は37.1%、15歳以下が占める割合は21.9%と多くを占めている。

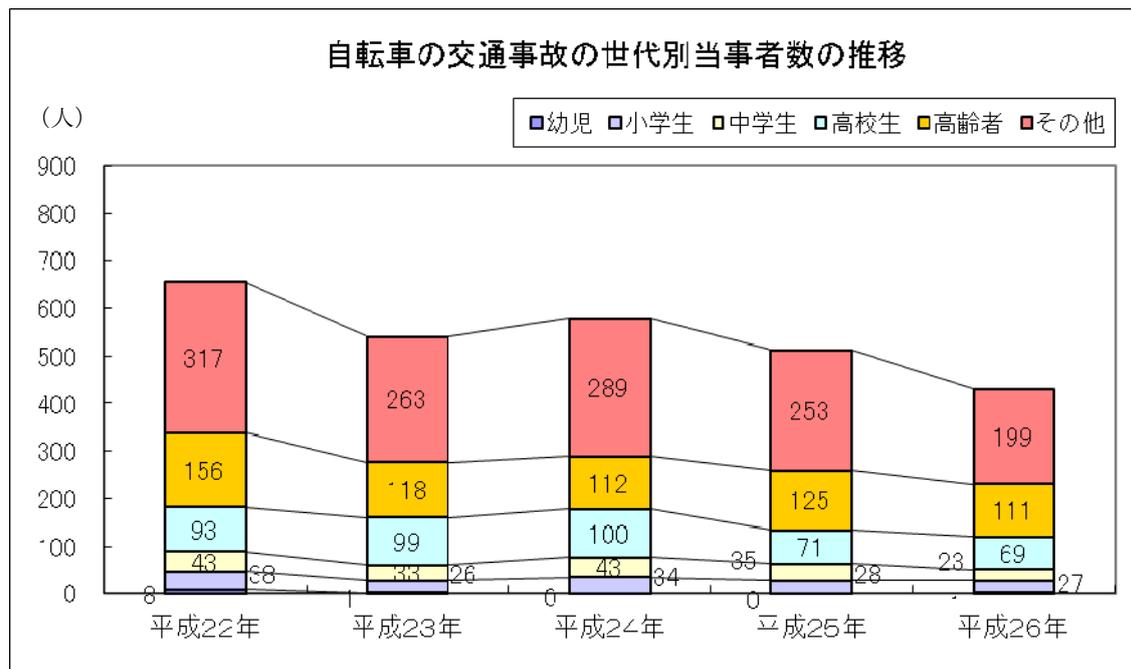
また、自転車が第1当事者となる事故を原因別に見ると、ハンドル操作不適（45.9%）、交差点の安全通行違反（14.6%）、一時不停止（10.0%）と多く占めている。

※その他不明：前方不注意など

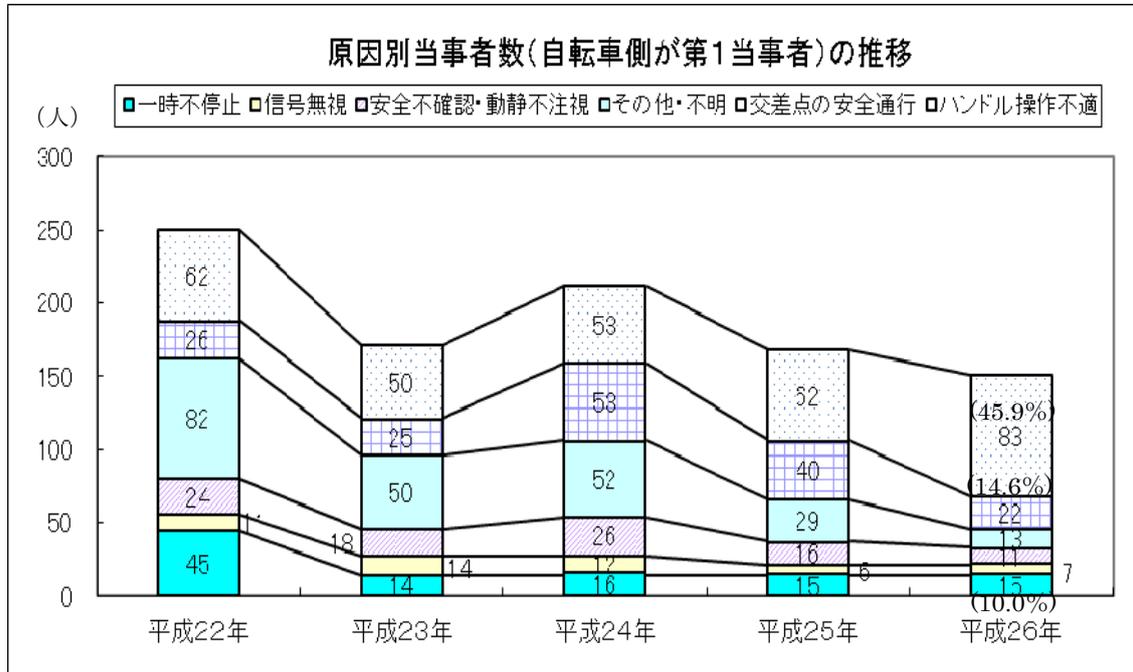
① 自転車の交通事故発生件数の推移



② 自転車の交通事故の世代別当事者数の推移



③ 原因別当事者数（自転車側が第1当事者数）の推移

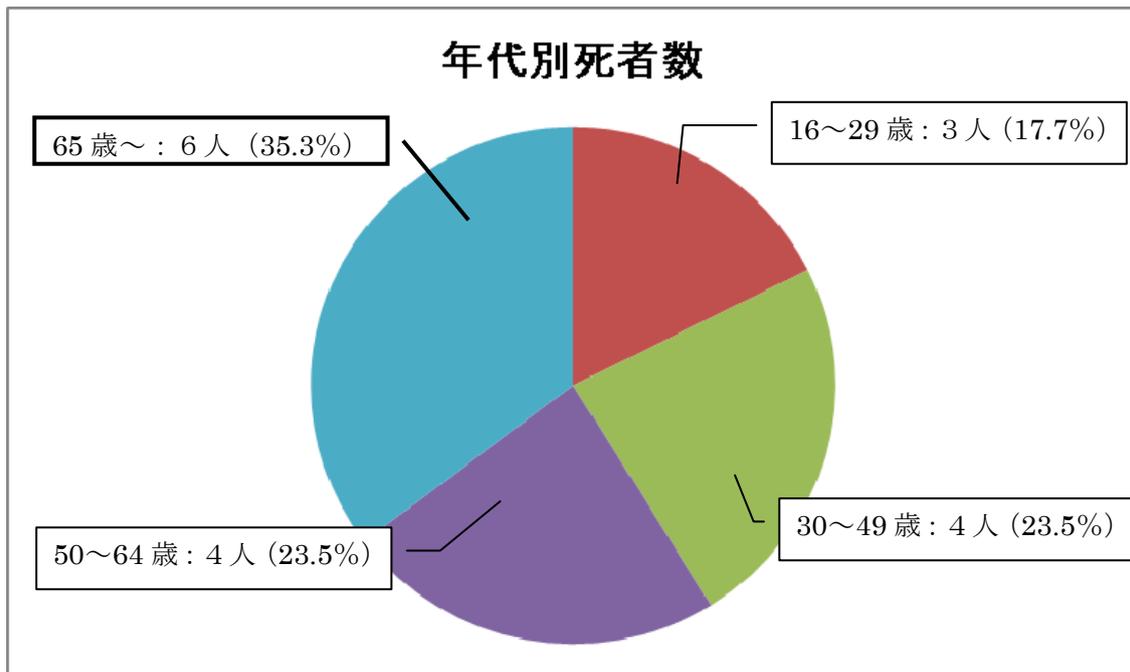


(4) 死亡事故の特徴

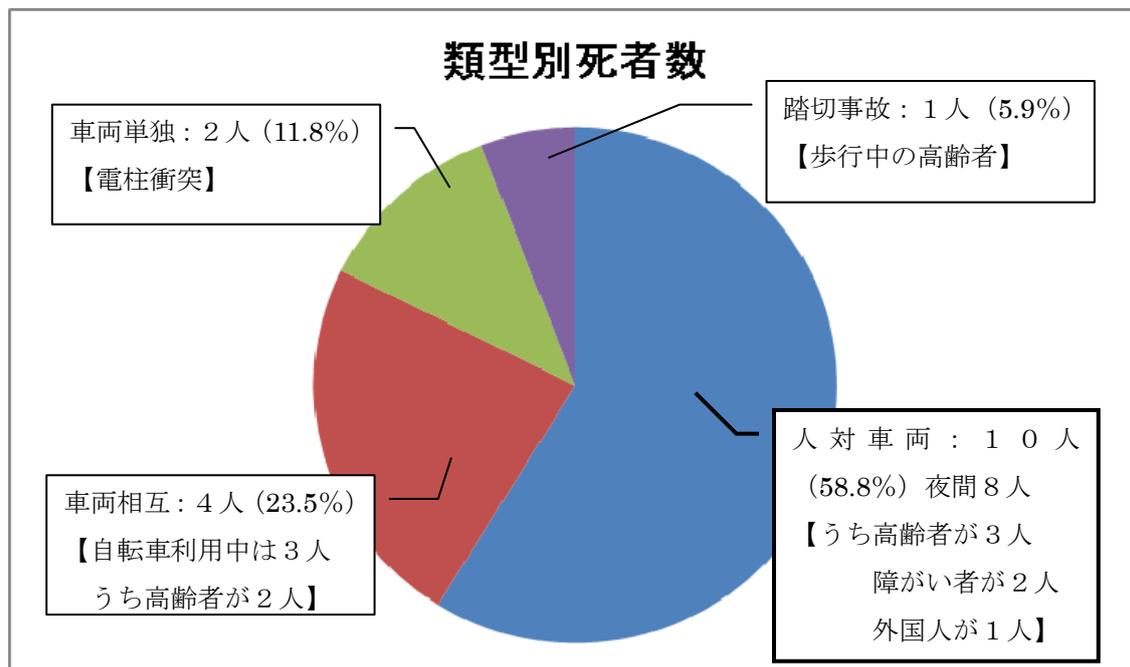
死者数17人のうち、65歳以上の高齢者が6人(35.3%)と多くを占めている。

死者数17人のうち、歩行者の事故が10人(58.8%,うち高齢者3人)と、前年比+5人増加した。夜間の歩行者の事故が8人と多かった。

① 年代別死者数



② 類型別死者数

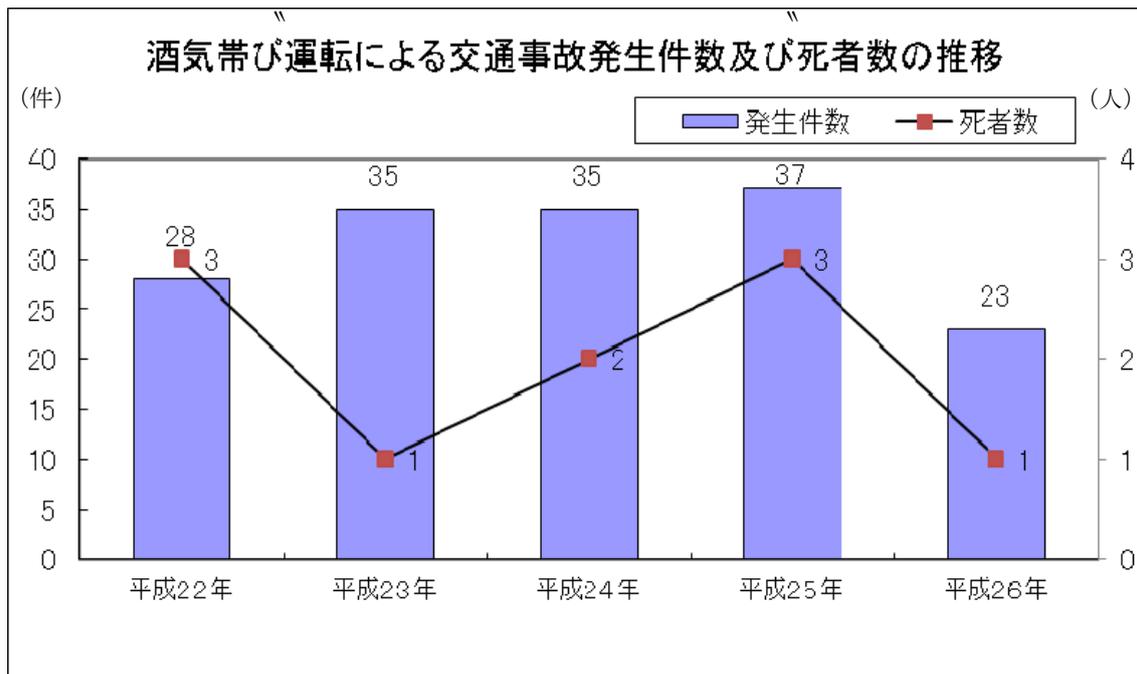


(5) 飲酒運転による事故

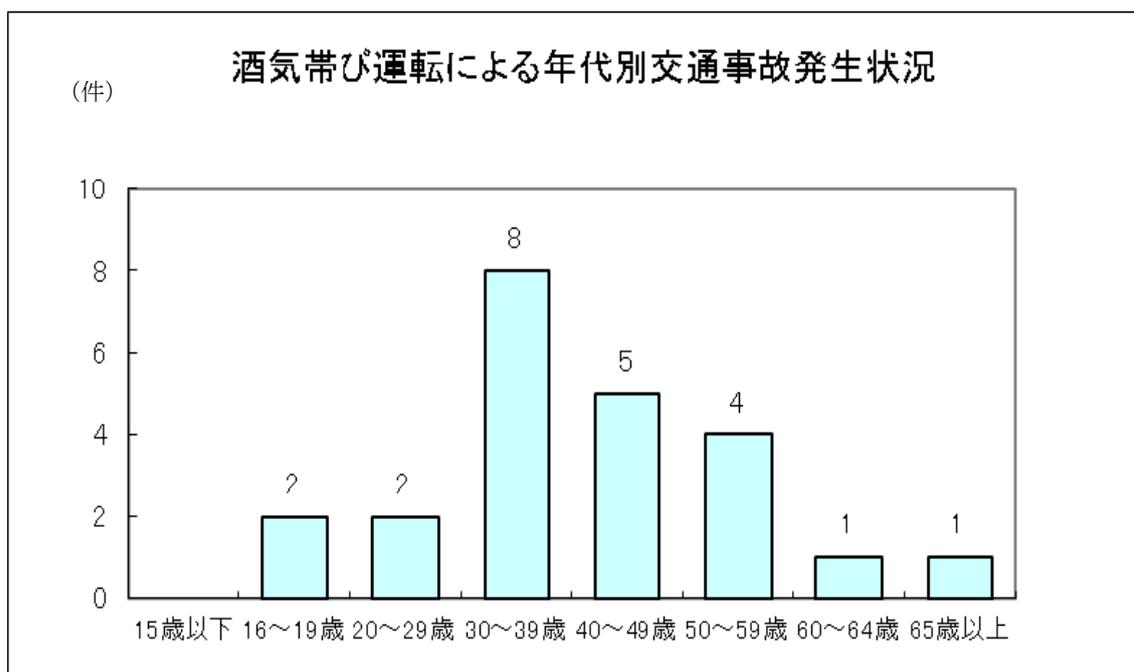
酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数は、近年増加傾向にあったが、前年比▲14件、▲2人と減少した。しかし、依然として飲酒運転による事故が発生している。

また、酒気帯び運転による交通事故発生件数を年代別に見ると、30歳代が8件と最も多く、40歳代が5件、50歳代が4件と次いで多かった。

① 酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数の推移



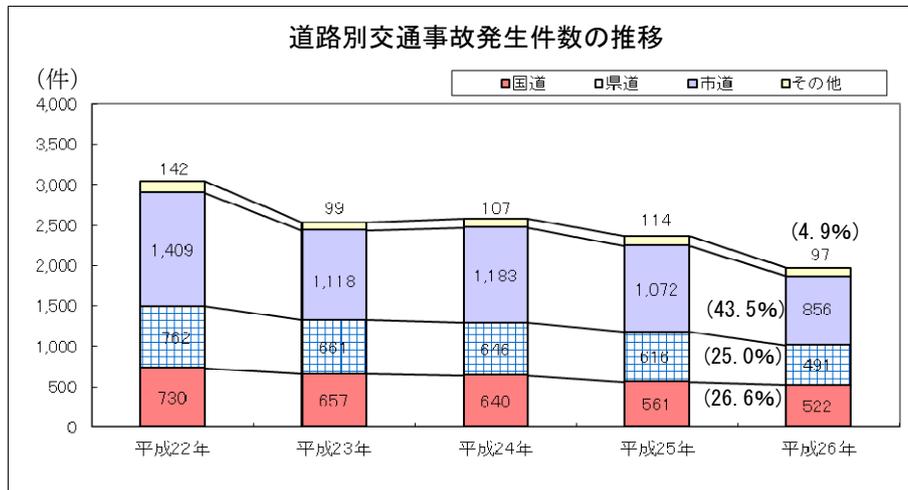
② 酒気帯び運転による年代別交通事故発生状況



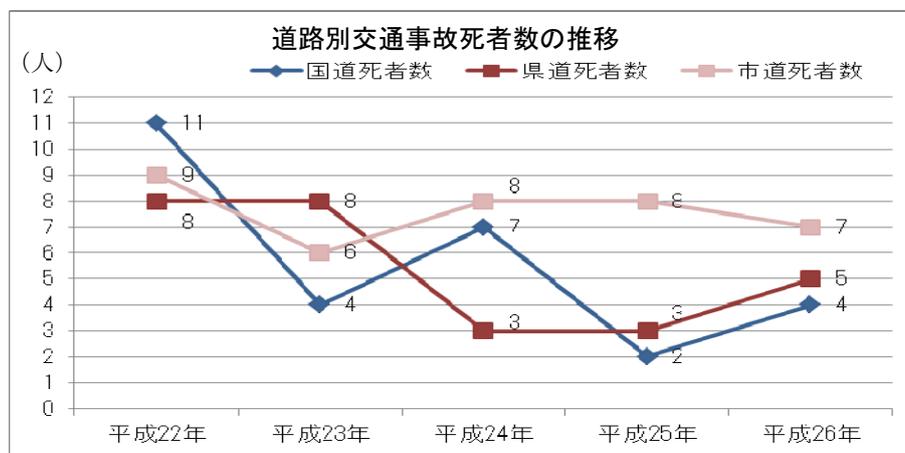
(6) 道路別交通事故発生件数の推移

- ・交通事故発生件数が、国道、県道、市道とともに減少しているが、国道・県道の死者数は増加した。
- ・事故類型別でみると、市道は国道・県道に比べ、交差点等（出会頭、右左折時等）の事故が多く、追突の事故が少ない。また、市道は、人対車両の事故が国道・県道の約4倍、車両単独の事故が約3倍と多い。

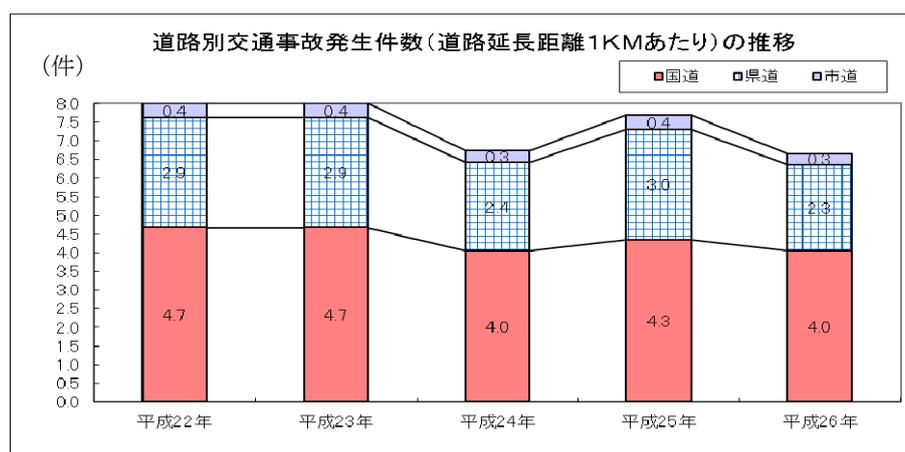
① 道路別交通事故発生件数の推移



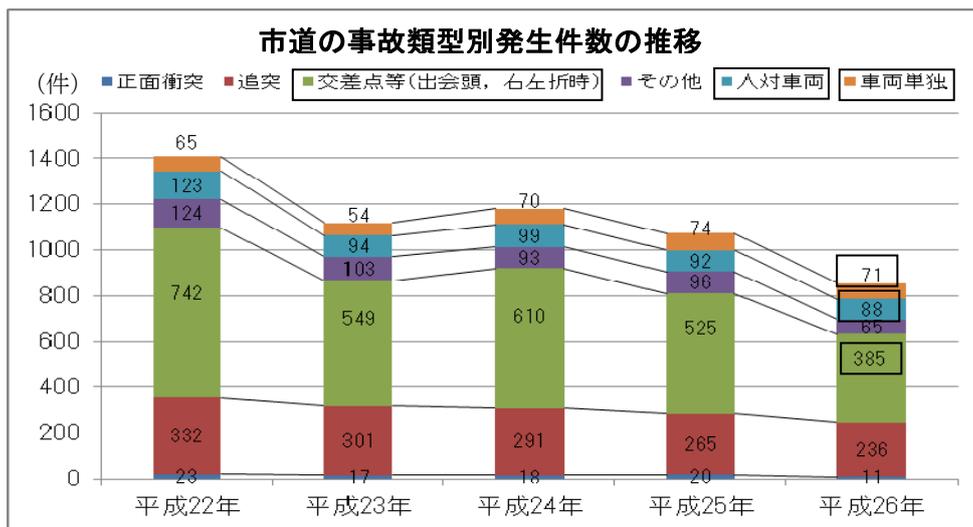
② 道路別交通事故死者数の推移



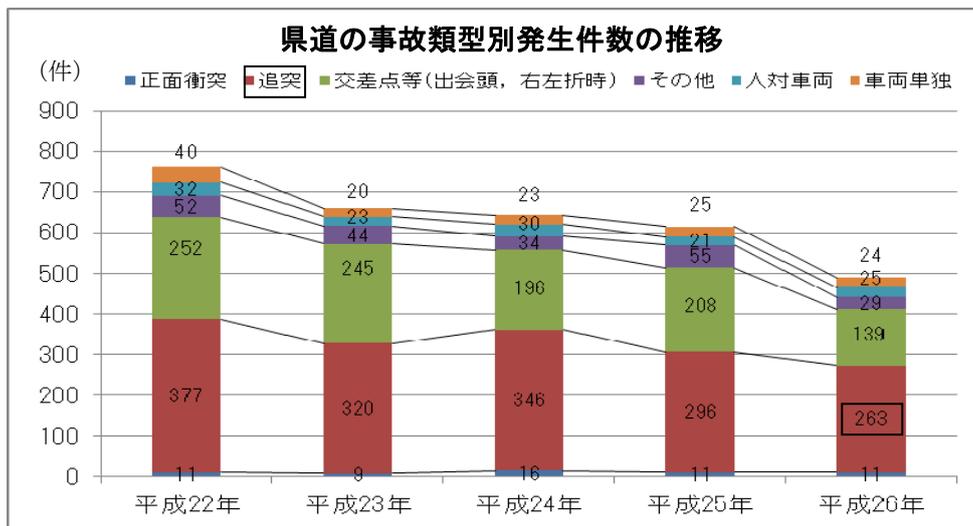
③ 道路別交通事故発生件数（道路延長距離1KMあたり）の推移



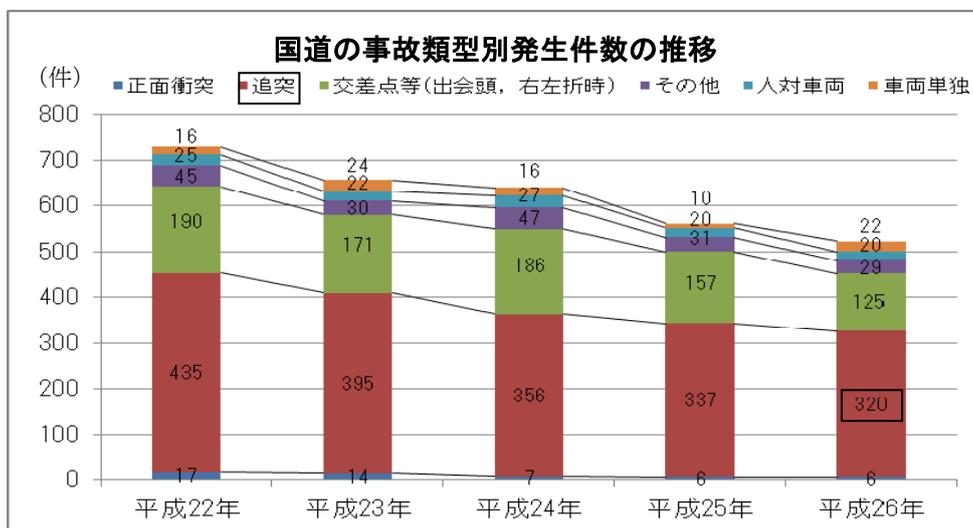
④ -1 市道の事故類型別発生件数の推移



④ -2 県道の事故類型別発生件数の推移



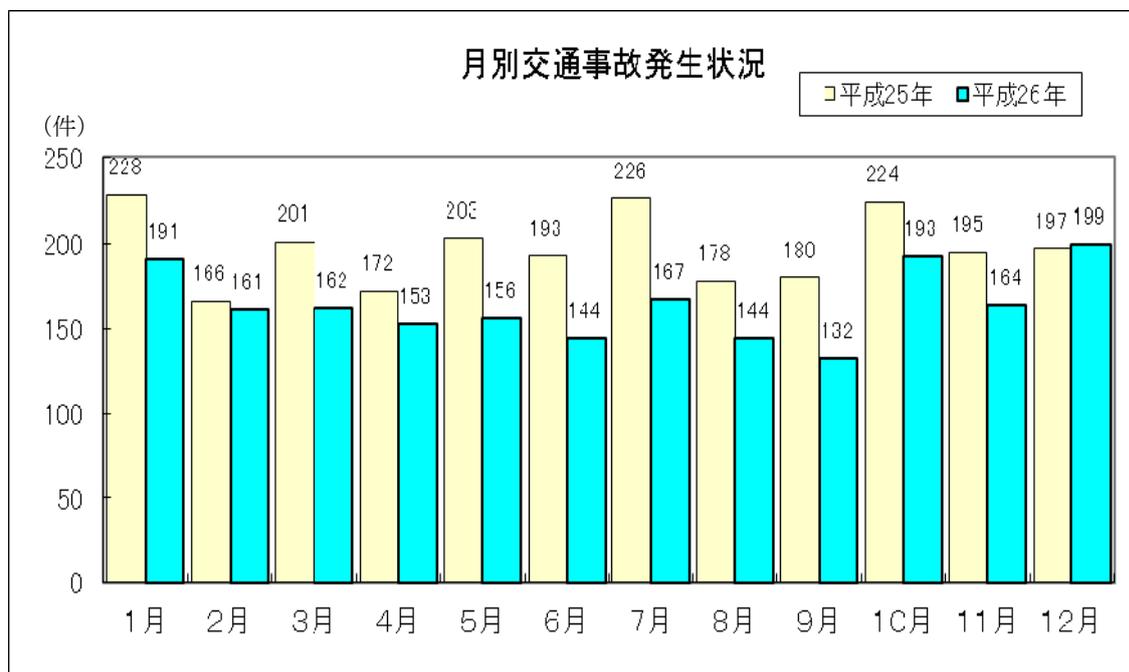
④ -3 国道の事故類型別発生件数の推移



(7) 市内の交通事故発生状況のその他の特徴

① 月別交通事故発生状況

- ・発生件数の上位月は12月，10月，1月となった。
- ・なお，12月のみ前年比増加した。



② 月別交通事故死者数

8月～12月（後半）に，死亡事故が多く発生している。

